

JACET Hokkaido, JCA Hokkaido, & HELES - Joint Meeting 2024

JACET 北海道支部・JCA 北海道支部・HELES
2024 年度 合同研究会

- Date 日付 :** 2025 年 3 月 8 日 (土)
- Registration 受付:** 12:30 -
- Study Meeting 研究会:** 13:00 - 17:40
- Venue 会場:** 北海学園大学 (豊平キャンパス) 8号館 B31 教室
(土曜開催のため、駐車場は使用できません。公共交通機関でお越しいただくか、近隣のコインパーキングをご利用ください)

Registration Fee 参加費: 無料

Registration 参加申し込み : 下記のサイトからお申し込みください。

<https://forms.gle/W6jKCD8xWofTp8T49> (3/3 (月) 締切)



北海学園大学 へのアクセス
札幌市営地下鉄東豊線学園前駅直結
<https://www.hgu.jp/about/access.html>
〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号
電話 : 011-841-1161 (代表)

PROGRAM

- 12 : 30 – 13 : 00 受付
- 13 : 00 – 13 : 05 開会式（担当学会 JACET 北海道支部）
- 13 : 05 – 13 : 35 研究発表①
「問題な日本語」を学生と共有化する小活動の報告」
佐々木 智之（北海道科学大学）
- 13 : 35 – 14 : 05 研究発表②
「第 2 外国語リーディング理解問題の改善について～良い多肢選択問題の作り方」
竹内 康二（札幌国際大学）
- 14 : 05 – 14 : 35 研究発表③
“Developing a college-Level translation course through the lens of
discourse communities”
Marshall Klassen (Hokkaido University)
- 14 : 35 – 15 : 05 研究発表④
「ELFコミュニケーションにおける交感的言語使用の調査」
佐藤 亜美（名古屋商科大学）
- 15 : 05 – 16 : 05 ワークショップ
「生成AI×英語教育 広がる学びの可能性」
森田 明香（土幌町立土幌町中央中学校）
- 16 : 05 – 16 : 25 Coffee/Tea Break 交流会
- 16 : 25 – 17 : 25 講演（講師紹介 松本 広幸）
「教科書分析が導く語彙指導の未来：小中高の教科書データが示す現状と課題」
佐藤 剛（弘前大学）
- 17 : 25 – 17 : 35 質疑応答
- 17 : 35 – 17 : 40 閉会式（次年度担当学会 HELES）

ABSTRACTS

研究発表①

「問題な日本語」を学生と共有化する小活動の報告

佐々木 智之（北海道科学大学）

学生との日々のコミュニケーションの中で、「問題のある日本語」が気になることがある。教員として問題点を指摘するのは簡単だが、あえて問題な日本語について、学生と共有化することを試みた。問題のあることばの洗い出し、「何が問題か」の話し合いをしていくうちに、問題点を「過度の略語」「誤用」「あいまいな表現」とラベル化することによって、コミュニケーション上どんな問題が起こるのかを考える機会になった。

研究発表②

第2外国語リーディング理解問題の改善について

～良い多肢選択問題の作り方

竹内 康二（札幌国際大学）

大学で一般的に行われているリーディング授業の評価において、教授内容を的確に反映し、公正で偏りがなく、評価される学生にも納得のいく質問を作成することは、教員の最も重要な責務の一つである。また、授業の評価活動は、教員の語学習得に関する知見を反映するとともに、その語学習得の最後の重要なステージでもある。この実践発表においては、第2外国語リーディング理解において評価すべきことは何か、適切な評価を実現するために、多肢選択問題を利用する場合に留意することは何か提言したい。

ABSTRACTS

研究発表③

“Developing a college-level translation course through the lens of discourse communities”

Marshall Klassen (Hokkaido University)

This presentation will explore teaching approaches for college-level translation courses, focusing on the critical importance of high-context communication in English and Japanese media. Translation and localization encompass a multifaceted understanding of language and culture, including the analysis of cultural values, norms, and linguistic features within diverse discourse communities. As Japanese higher education increasingly emphasizes global citizenship and intercultural communication, the ability to interpret and convey cultural meaning and nuance within specific contexts becomes paramount in translation studies. This presentation will outline strategies for addressing high-context communication in translation courses and explore valuable resources to enhance student learning in this area.

研究発表④

「ELF コミュニケーションにおける交感的言語使用の調査」

佐藤 亜美（名古屋商科大学）

EFL (English as a Lingua Franca) によるコミュニケーションの研究では、母語が異なる英語使用者が、どのように意思疎通を行いまた相互理解を達成しているかという観点から、相互行為における言語使用の特徴が調査されている。

本研究では、国内の ELF コーパスである ELFJ Corpus に収録された 18 組の会話（日本語を母語とする英語使用者と、日本語以外を母語とする英語使用者の Zoom による二者間会話）を分析し、同コーパスの先行研究（Kuroshima et al., 2022 など）を踏まえながら、特に会話参与者間のラポールを高める交感的言語使用（phatic communion)に着目して、EFL による相互行為の特徴を検討した。発表では、交感的言語使用の事例を示しながら、英語の言語的資源が限られている初級英語使用者が、異文化接触の場面でどのように対人関係を構築・維持しながらコミュニケーションを達成しているかを考察し、今後の課題や英語教育への示唆を提示する。

ワークショップ

「生成 AI×英語教育 広がる学びの可能性」

森田 明香（土幌町立土幌町中央中学校）※Zoom 参加

生成 AI の活用を授業外でコントロールすることは不可能だ。授業の中で学びのパートナーの一つとして活用し、「どこで生成 AI を活用することが有効か」を考えさせる場面設定が大切だ。一人ではできないが、助けがあればできる生徒たちにとって、生成 AI による支援（足場かけ→協働学習→自己添削）は大変有効だ。どこから書いていいかわからない生徒にとっては、お手本となる英文を提示してもらうことで英語らしい「型」を身につけることができる。ある程度「型」が身に付いたら、自分の言葉で表現する体験を協働的に行う。言い換え表現を提示してもらいながら、繰り返し行うことで「自分の本当に言いたいことが言える術」を学び、英語を発信することへの自信につながる。次に、「ループリック評価」を使った自動添削機能を使い、書き足りないところを補うヒントをもらいながら何度も発信を続けることで表現がブラッシュアップされ、本当に使える英語を身につけることができる。自分の言いたいことを自分の言葉で伝え、分かりあえる体験、これこそまさに心揺さぶられる本当の学びである。生成 AI と創る新しい学びのカタチを参加された方とご一緒に考えていきたい。

講演

「教科書分析が導く語彙指導の未来：小中高の 教科書データが示す現状と課題」

佐藤 剛（弘前大学）

現行の学習指導要領では、小学校で 600～700 語、中学校で 1,600～1,800 語、高校で 1,800～2,500 語の語彙指導が求められ、合計で 4,000～5,000 語が指導されます。しかし、具体的な指導語彙の選定は出版社や現場の裁量に委ねられており、多様かつオーセンティックで柔軟な語彙指導が可能である一方で、学習語彙にばらつきが生じる懸念があります。そのため、これまで小学校、中学校、高校の検定教科書をデータ化し、語彙の実態調査を行い、共通して学ぶべき語彙の選定を継続して行ってきました。

本講演では、これまで蓄積してきた小中高の検定教科書における語彙データを集約し、それぞれの校種の検定教科書における語彙数や共通語、特徴語の分析結果を紹介します。また、小中高の出現語彙の比較や一貫性に関するデータを基に、日本の英語教育における語彙指導の現状と課題を考察し、実現可能な方向性を皆様と共に探りたいと考えています。

懇親会のお知らせ

と き 3月8日(土) 18:30 ~

ところ コウカシタ カモシヤ

北海道札幌市北区北六条西6 JR 高架下

011-522-5689

かいひ 5,000円

<https://tabelog.com/hokkaido/A0101/A010101/1063584/>



《お問い合わせ先》

JACET北海道支部事務局

岩田 哲 (北海学園大学) akiraiwata[@を入れる]hgu.jp